

ついて、定量的な言及に至った報告は探せる範囲では見つけれなかった。このため、採餌や移動に関する行動阻害がどの程度の水温で顕在化するかは不明である。

湧水起源の河川で、特に湧出孔からの隔たりが小さい場合、厳冬期においても水温が0℃以下まで低下することは希であり、5℃以上の水温を維持することが多いと推察される。このため、完全な冬眠状態には至らずに、ある程度自由に逃避行動が可能な程度の活動能力を維持したまま滞留している可能性がある。

また私信ではあるが、勇振川と同様に夕張山地北部の山岳を水源とする近傍の小河川でも、初冬期の魚類捕獲調査実施時に緩流部の氷下から本種を捕獲した事例が数件ある。これらはいずれも不活性状態で捕獲されており、水底まで完全に結氷しない程度の環境下では、ほぼ活動ができない冬眠状態で、河床付近にある障害物の下などに滞留していることが推察される。

本報告による事例は、広い全道域に比すると、極めて局所における事例報告であるに過ぎない。しかし今後、特に湧出量が豊富な止水域における冬季滞留状態に関する事例確認が増加すれば、本種の生態を解き明かす上で非常に興味深いばかりではなく、水環境の多様性やその保全重要性を講ずる上での、有意な知見のひとつとなると考えられる。

引用文献

春日井潔・虎尾充・竹内勝巳. 2008. サケの産卵床から発見されたエゾアカガエル. 爬虫両棲類学会報 2008 (1) :1-3.
 駒澤正樹. 2013. エゾアカガエル (*Rana pirica*) 幼体の越冬環境確認の一例. 北海道爬虫両棲類研究報告 1:11-12.
 大西勲. 2013. エゾアカガエルの越冬死(2011-12冬)について. 北海道爬虫両棲類研究報告 1:27-33.
 竹中悠. 2008. 外来種アメリカミンクによる越冬中のエゾアカガエルの捕食記録. 爬虫両棲類学

会報 2008 (2) :101-103.

照井滋晴・前田潤. 2013. 汽水湖内で確認されたエゾアカガエル *Rana pirica*. 北海道爬虫両棲類研究報告 1:27-33.

(061-2283 北海道札幌市南区藤野3条4丁目15-3 office malma)

エゾアカガエルの秋鳴きと冬季の行動・体の変化の事例

徳田 龍弘

エゾアカガエル (*Rana pirica*) は道内全域に分布し、繁殖期にはオスは盛んに鳴く。エゾアカガエルの繁殖期は4～5月が普通だが、高地では7月となる(前田・松井, 1999)。だが野外での観察を続けると繁殖期とされる期間外でも、まれに鳴くのを確認することがあるため、記録として残す目的で報告を行いたい。

2014年9月13日14:00頃、著者は阿寒湖近傍にあるひょうたん沼(釧路市)で両生類・爬虫類の生息調査を行っていたところ、沼の辺縁の枯れかけた挺水植物が密集する浅い水面(図1)付近からエゾアカガエルの鳴き声を聞いた。繁殖期のように多数が一斉に鳴いていなかったが、2地点から1個体ずつの鳴き声を確認した。連続的な鳴きではなく、1ノートずつ数分おきに、「キヤラララ……キヤラララ」と弱く鳴いた。掴まれた時に発するリリースコールとは全く異なる。天候は曇り、気温は11.0℃、弱風での確認だった。鳴いていた個体は捕獲することは出来なかった。また周囲で抱接や卵塊、幼生などは確認されなかった。

ひょうたん沼や阿寒湖周辺に限定したエゾアカガエルの繁殖期に関する調査所見のある記事は見つける事ができないが、著者が続けている

20 エゾアカガエルの秋鳴きと冬季の行動・体の変化の事例

野外観察において、ひょうたん沼近傍のエリアである阿寒湖周辺では5月に卵塊をしばしば確認しているため、阿寒湖周辺でも遅めではあるが4～5月の繁殖期に該当するものと思われる。秋鳴きの別の事例では、2014年10月19日9時30分に釧路町達古武（達古武湖畔）にて照井滋晴氏（NPO 法人環境把握推進ネットワーク-PEG 所属）が確認したという私信を得た。気象庁の気象データのうち近隣の標茶観測点のものでは2014年10月19日9時30分の気温は8.0℃、平均風速は1.6m、雨量は0mmであった。また2014年8月15日20時頃に鶴居村温根内（湿原内）にて温根内ビジターセンター職員が確認し録音した音源を、筆者と照井氏がエゾアカガエルの鳴き声と確認した。気象庁の気象データのうち近隣の鶴居観測点のものでは2014年8月15日20時00分の気温は17.8℃、平均風速は1.1m、雨量は0mmであった。この日の最高気温は21.6℃、最低気温は14.5℃であった。過去に晩夏から秋季にエゾアカガエルの産卵が確認されていないことから、この秋鳴きから繁殖を完遂する例は、まず無いと思われる。

秋鳴き事例ではないが、筆者が2010年11月20日に札幌市南区小金湯温泉百松沢周辺の小沢でエゾアカガエルのオスが水中の石の下で越冬していたところを捕獲した事例では、この時点で婚姻瘤の発達が見られ（図2）、少なくとも越冬中にはすでにオスは体が繁殖に向けた変化をしている。また例年エゾアカガエルの繁殖に成功している札幌市円山動物園の飼育員、本田直也氏の私信によれば、11月～2月に0℃前後に温度を下げた越冬環境下でエゾアカガエルのオスがメスに抱接をする行動が度々確認されている。ただし、メスは温度が上がらないと産卵を行わないため、繁殖を冬期間に完遂することはないという。

秋に鳴く理由の推察としては、秋季の気温下降等により、繁殖期である春季と似た周囲環境となることでオスが繁殖期と誤判断して鳴く事が考えられるが、鳴いていた時点での個体の未

確認など、判断材料は十分ではなく、現段階では鳴く目的は不明である。

今後、繁殖期外に鳴いているエゾアカガエルの捕獲観察によって、体の変化などを確認したいと考えている。

情報を提供して下さった本田直也氏と照井滋晴氏には厚く御礼申し上げる。

引用文献

前田憲男・松井正文. 1999. 日本カエル図鑑(改訂版). 文一総合出版. 東京. 223.

(〒005-0021 北海道札幌市南区真駒内本町7丁目4-27 ばいかだ WILD-PHOTO)



図1 エゾアカガエルが鳴いていた環境

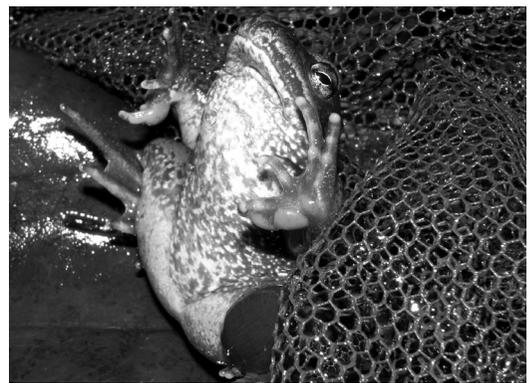


図2 婚姻瘤が発達した越冬中のオス成体（左後肢にはヒルが付いている）